

令和元年度 檜山小学校 学校評価

子ども像	本年度の重点	具体的な子供の姿 (評価内容)	具体的な取組	自己評価			達成状況	改善策	関係者評価	
				教職員	保護者	児童(3年以上)			意見等	
人の気持ちの分かる やさしい子(徳)	檜山の『ひ』プロジェクト ①人権・同和教育に視点をあてた授業 ②道徳教育の充実 ③特別支援教育の推進 ④児童理解、教育相談に基づいた実践 ⑤自治的で一体感のある特別活動 ⑥地域と協働した体験活動の充実	(1)よりよい生活の実現のために、主体的に考え、互いの良さを認め合いながら、学ぼうとする。(①、②、⑤) (2)自分が認められていると感じ、明るく意欲的に学校生活を送る。(③、④) (3)全校児童が仲良く過ごしやすくなるために、進んで新しい考えや方法を求める。(⑤、⑥)	・道徳の時間を中心に、各教科の学習において、児童がよりよい生活の実現のために、互いの考えを認め合い、学べるように工夫する。	○	○	○	・主体的に考え、互いの良さを認め合いながら学ぶ姿は見られるが、それがよりよい生活の実現に繋がっているかどうかは判断しにくい。 ・公開日等で保護者にも児童が互いの考えを認め合い学ぶ姿を見てもらえるようにしたが、これもよりよい生活の実現に繋がっているかは不明確であった。	・今行っている活動や学びがどのようにしてよりよい生活に繋がっているのかを具体的に示すようにする。	・リーダー的な児童もいれば、それに従うまくグループの調和をとる児童もいる。それぞれの個性として認めていいのでは。 ・豆腐飯集会の時、高学年の児童が低学年の世話を進んで行うなど、思いやる心に接し感心した。 ・檜山小の児童は、とても素直でやさしい。いつまでもこの気持ちで育ってほしい。 ・教職員が少人数学級ならではの目配りができ、個々の性格、行動を的確にとらえ、分かりやすく指導されていると思うので、児童も素直に学校生活に馴染んでいる。 ・より良い生活ということよりも、学んだことが生活に活かされるかが大切だと感じた。 ・一人一人の子供の良いところが見え、その子に合った指導や教育ができています。 ・児童の自己肯定力が高いという評価が素晴らしい。今後も少人数の良さを生かし、児童一人一人の理解を深め個々に応じた支援をして頂きたい。 ・子どもは、人から認められると良い方向に向かっていく。児童一人一人の良いところを見つけて認めていくことは良い事だ。 ・自分が認められているという意識が持てることは、日々の教育の積み重ねがあつてのことだ。 ・少人数学級のため、一人一人の個を十分理解し把握していただいている。クラスの中心となる子の意見で活動が進められることは分かるが、できる限り全体から広く意見を聞いていただきたい。	
			◎	◎	◎	・教職員、保護者、児童共に評価が高い。一人一人が明るく意欲的に学校生活を送っている。	・現在の取組を全職員で継続しつつ、児童一人一人の良さを認めていく。			
			○	◎	○	・児童は、主体的に新しい考えや方法を考えたり工夫したりしていたが、そのことについて振り返る時間が少なかった。 ・教職員の評価は、一部の児童の意見で活動が進むことがあったため、改善の余地があるとの判断による。	・児童が主体的に企画・運営した活動について振り返る場を設定し、頑張りを認めて達成感を高められるようにする。			
やる気いっぱい最後まで がんばる子(体)	檜山の『や』プロジェクト ①運動好きを増やすための継続的な体力づくり ②健やかな心身を育む保健指導 ③給食指導の充実と食育の推進 ④家庭、地域と連携した安全教育、防災教育(危機回避能力の育成)と安全確保の徹底	(1)進んで運動し、めあてに向かって最後までやり抜く。(①) (2)規則正しい生活を身に付け、健やかに元気よく生活する(②③) (3)基本的な生活習慣を身に付け、学校や家庭、地域で安全に生活する。(④)	・縄跳び、マラソン、水泳などで自分のめあてをもたせ、授業や委員会活動の工夫を通して意欲をもって継続的に取り組めるようにする。	◎	○	○	・縄跳びやマラソンは委員会が中心となり、それぞれのカードの色塗りや練習の仕方の掲示などを工夫し活動意欲が高まった。 ・水泳では、個のレベルに応じて自分のめあてが自覚できるようにした。掲示を工夫したり、ペアやトリオ学習を取り入れたりすることで、意欲的に取り組めるように支援した。	・係や委員会活動での声かけの継続を通し、主体的に運動する機会(時間と場所)を確保していく。 ・各行事や体育の授業では、自己の取組を振り返り、児童が達成感を味わえるようにする。 ・縄跳び集会やロードレース大会など保護者に見てもらふ機会を設け、児童の意欲を高める。	・家庭教育の重要性を保護者にもっと理解して頂く取組も必要では。 ・マラソンでは、新記録を出すなど熱心に取り組む姿が見られた。また、体育館にきちんと整頓された上靴を見て感心した。 ・体育でも絵画でも感想文等でも、各種いろいろなチャレンジをする機会があると思うので、子供達に達成感を味わわせてほしい。 ・3年生限定ではあるが、公共施設で靴を脱いで部屋上がる時、先生に言われなくてもきちんと揃えていた。家庭でもそう願いたい。 ・通勤時、横断歩道に接近した時、車が手前で停止する前に渡るので、車がしっかり停止してから渡るよう指導してほしい。 ・心と体の健康維持にはあくまでも個人差があるので、学級懇談会や個別指導は大切だ。 ・縄跳び、マラソン、水泳大会など、全校児童が一緒になって取り組める活動があり非常に良い。保護者が応援に行くことで、児童の活動に対する意欲が高まっている。 ・体育祭では、6年生を中心に全校児童が生き生きとした態度で取組が実践されていて良かった。朝の通学時の挨拶は、以前と比べて良くなったが、校外では今一つ。個人差がある。 ・規則正しい生活習慣の評価が、親も子ども低い原因はどこにあるのか。 ・縄跳び、ロードレース、個人差はあるが目標に向かう姿が見られ感謝する。そんな姿を多くの家族に応援してもらえたらいい。子どもが案内状を出したのは良かった。 ・授業を受ける時、給食を食べる時、それぞれにマナー(足をくまない、肘をつかない等)を学校でも指導をお願いしたい。	
			○	△	△	・さわやかウィークを家庭と協力して実施し、規則正しい生活習慣を身に付けられるようにする。また、食事のマナーを育て、好き嫌いをなく食べられるようになる。	・学級懇談会などを通して、保護者の方への協力を継続してほしい。 ・個別相談など、効果がある取組は継続して支援できる体制作りをしていく。 ・食事マナーや好き嫌いは、家庭と連携したり、栄養教諭と連携を図ったりして繰り返し指導する。			
			◎	○	○	・安全な暮らしについて、生活目標や安全指導に重点的に取り組む。	・生活目標や委員会活動の連携を図りながら、児童が主体的に生活目標や安全な暮らしの達成に関わっていけるようにする。 ・引き続き、発達段階に応じて学級活動や道徳の時間に安全指導を行い定着を図っていく。			
学びあいうち(知)	檜山の『ま』プロジェクト ①主体的、対話的で深い学びの授業の実践 ・指導者がねらいを明確にもち、めあてとまとめの整合性を図り、振り返りを重視した授業 ・習得と活用に往還する単元構想 ・ねらいに迫る適切な学習形態 ②発展的な指導の工夫(算数科、国語科) ③家庭学習につながる楽しい・分かる授業 ④探究的な学習の取組 ・各教科等で身に付けた知識技能を活用できる学習の展開 ・ふるさと教育の充実 ・持続可能な社会の開発のための教育の推進	(1)自分の考えをもって伝えたり、相手の考えを理解したりしながら話し合い、自分の考えを更に深める。(①、②) (2)毎日、学年に応じた時間、丁寧に家庭学習に取り組んだり、読書に親しんだりする。(③、⑤) (3)学年に応じた基礎的・基本的な学力を身につけ、それを活かして考えている。(②、⑤) (4)ふるさとへの「ひと、もの、こと」に積極的に関わり、ふるさとと交流が円滑に進むように協力して下さっている。(④)	・学習のねらいを達成するために、指導者がねらいを明確にもち、児童が主体的に学び合う授業づくりをする。	○	○	○	・自分の考えを持ち、伝え、友達の考えを温かい態度で聞くことができる。各学級共に、「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、ねらいを明確にした授業づくりに努めてきたことも効果的であった。さらに、比較して考える、深く考える等、友達と学び合うことで思考が深まる授業づくりに努めたい。	・児童が考える主体となり、友達と学び合いながら、思考を深めていくような授業づくり、単元づくりをしていく。	・習字や絵画の作品で県知事賞などの特別賞をはじめ、多数入賞するなどすばらしい活躍であった。 ・子供達にふるさとを知ってもらうのは良いことだ。また、学習も継続していくことにより、個人差はあるが向上していく。 ・児童自らが、檜山の良いところや考えてみたこと等、積極的に研究でき、発表できることは高く評価したい。 ・ふるさと教育の充実のため、文化、歴史、自然といった様々な分野で、地域資源を活用して取り組まれるのは良い事である。 ・定期的に漢字計算道場など行われている事により、基礎を身に付けさせる事が出来ている。 ・日頃から読書に親しむ事も大事だが、加えて新聞を読むことも推奨したい。「読解力」や「文章力」が身に付く。 ・豆腐飯集会では、5年生がつくる過程に加わることで子どもたちの成長に驚かされた。ふるさと学習では、子どもたちとふれあうことで、地域の方も元気ももらえるのでは。多久川の調査結果が農協やコミセンに貼ってあることで、地域の人に感心を持ってもらえると思う。ふれあうことで地域も元気をもらい、開校の不安が少しでも無くなるのでは。 ・休日の学習時間が短いことについて、自学や読書などを自ら行うきっかけづくりをお願いしたい。	
			◎	○	○	・家庭学習の手引きやパワーアップ週間を活用しながら、家庭学習習慣の定着を図る。また、朝読書や読み語り、並行読書、家読の日の実施などの豊かな読書活動を推進する。	・評価は○だが、保護者・児童の回答にはばつきがあり、十分な達成状況とは言えない。宿題は毎日取組み、特にパワーアップ週間は目標に沿って努力している姿が見られる。一方、休日の学習時間が短いことや学習時間に個人差があることが課題であり、宿題が早く終わる児童への働き掛けも必要である。	・引き続きパワーアップ週間の取組を継続していく。また、個別の関わりが必要な児童に対しては、担任が丁寧に対応していく。宿題が早く終わる児童については自学や読書を奨励し、友達の取組を見合う機会を設け、意欲が高まるようにしていく。		
			◎	○	○	・スキルタイムや、漢字、計算道場の実施などを通して、一人一人の基礎的、基本的な学力の向上を支援する。また、各教科等で身に付けた知識や技能を活用できる学習を展開する。	・基礎的基本的な学力は概ね身に付いているが個人差はある。漢字、計算道場に向け、個人差に応じためあてをもって取り組むようにするなど、全ての児童が達成感を持つことができるようにしていく。	・漢字、計算道場については、計画的に練習できるようにする。また、個人差に応じて、基礎・基本の定着を図ったり、より発展的な問題にチャレンジしたりできるように、取組み方を工夫していく。		
			◎	○	○	・生活科や総合的な学習の時間を軸に適切な学習材を選択し、児童が主体となるような探究的な学びを実践する。	・三者共に評価が高い。これまで以上に児童の思いを大切にしたいふるさと教育を推進してきた成果である。地域の方々、地域とのつながりや交流が円滑に進むように協力して下さっているおかげである。	・引き続き、ふるさと教育の充実を図る。また、今年度の各学年の学びを来年度に活かせるようにまとめ、つなげていく。		
連携	檜山 連携プロジェクト ①家庭、地域との連携 ②保幼小中連携の充実 ③地域学校運営理事会とPTA活動の充実 ④働き方改革による児童と向き合う時間の確保	檜山に愛着と誇りを持ち、進んで地域の活動に参加する。 ③地域学校運営理事会とPTA活動の充実 ④働き方改革による児童と向き合う時間の確保	・ふるさとへの学習を通して檜山のひと、もの、ことのよさにふれる活動に取り組む。児童の地域行事への積極的な参加を呼びかけるとともに、地域や保護者の学校行事や学習支援への協力をお願いかける。	◎	○	◎	・教職員と児童の評価が高いのはふるさと教育に重点的に取り組み、檜山のひと・もの・ことの良さに触れる機会を多く取ったためだと思う。 ・保護者の評価がやや低いのは、ふるさと教育について知る場が学習発表会のみであり、それまでの学習の経緯が見えにくいためと考えられる。	・今後もふるさと教育の充実を図る。 ・保護者に対して、ふるさと教育について理解してもらふ場を増やしていく。	・児童の皆さんも先生方も積極的に地域に関わっておられた。 ・コミセンの活動に積極的に参加し、地区の活性化に大きな役割を果たしてくれた。 ・良い事ですので、是非続けてほしい。年寄りから見ると、連帯感がやや薄れてきているように感じる。(30～50代) ・町内住民にも素直に打ちとけ、イベント等でもはつらつと行動ができています。 ・檜山の良いところ、自慢できること、まだまだ檜山のできることなど、自信を持って言う子になってほしいと願う。 ・大豆、そば栽培の体験に地域と連携して取り組まれており、今後も継続してほしい。地域で高齢者が増える中、奉仕とかボランティアの体験、高齢者とふれあう機会は重要な事である。 ・地域との交流は申し分ない。児童が、飛躍に愛着を持っている様子が感じられる。 ・コミセンの行事や各種事業に積極的に参加し、文体協の安全大会での発表も行い、地域の一員として十分役割を果たしている。 ・子どもたちが檜山のことを学び、ふるさと愛が高まっている評価である。 ・自分が生活する地域に誇りをもてるよう、ふるさと教育の充実をお願いしたい。	